

封印されていた記憶の欠片^{かけら}

工学部石油化学科 1992 年入学 塩田淑仁

(入寮時期 1992 年 4 月～1993 年 3 月)

[序] 寄稿依頼を受け、寮での日々を振り返ると自分でも忘れていたことを思い出してきました。“人生とは、その人の回想のことである“という言葉もあるので、この機会に熊野寮生活を書き下してみます (漫談筆)。

[入] 私が一浪を経て京大に合格したのが 1992 年、その京都生活の出発点が熊野寮でした。当時はバブル期の終り頃でのんびりとした雰囲気^{なまなま}が世の中を覆っていました。生活費を節約するためでしたが、愉快的仲間達に囲まれて奨学金 (80 千円/月) 程度で十分生活できたのでいい時代だったと思います。熊野寮は大学からも近く、四条・河原町方面にもアクセスがよくて便利でした。

[学] 希望に胸を膨らませて大学に入ったものの、教養部構内の“人と自転車のカオス”に嫌気がして、賀茂川、御所、岡崎公園などの自然散策、古本屋めぐり、府立図書館通いをしていました。単位不足に苦しめられていた寮の先輩から手ほどきうけていわゆる楽勝単位で固めていました。“単位は天から降ってくるので受け取るタイミングだけが大事、一年時は必要単位に専念し、興味がある科目は二年生でとればいい”というアドバイスが非常に役に立ちました。先輩達のオススメは“単位はあげるので授業には来ないでください”で有名な国憲の豊田先生で、この先生によって一年間にばらまかれる単位は 4000 単位とも 5000 単位とも噂されていました。あと、当時の生協パンフに掲載の特殊京大生理論なるものが印象的でした。授業の出席者 A は時間 t の関数で一週間 w ごとに半減する関数 $A = A_0 \cdot 2^{-(t/w)}$ で示される。ただし、 A_0 は初回出席者で、テスト前の一週間にはこの関数は不連続となり出席者は $A = A_0$ に復活する。

[務] 寮の雑務は主に事務室当番と食堂関連でした。事務室当番は単なる電話番 + 荷物受取係なので、のんびりと漫画をよみつつ過ごしていました。“ある組織に命を狙われているので助けてください”とかの濃い電話は残念ながら私には縁がなかったです。その手の電話をうけた東 N さんは“はい、はい、頑張ってくださいね”とガチャ切りしたらしいですが、、、。寮の夕食は売れ残ると訪問販売の売り子^{うりこ}をしないといけないのでこれが辛かったですね。まれにでるウナ井は即完売なのに対して、塩サンマは全く売れないので知り合いに泣きついて買ってもらっていました。強アルカリ洗剤による皿洗いも新鮮な体験でした。

[食]平日は寮食（当時は昼230円、夜350円）に、休日は洋食 Sato、中華唐山、辛口カレーのビヤント、ハイライト、丸二食堂などにお世話になりました。特に Sato のグリルドチキンとコロケ入りトンカツがお気に入りでした。Sato はなくなってしまったそうですが、東山七条にある“里”の支店だったらしく、里でも Sato と同様のメニューを提供しているようです。

[遊]寮生活の中心でした。受験の反動からか退廃的な生活（主に麻雀とゲーム）に身を委ね、風呂無し生活と夜更かしの醜態味を覚えました。朝は寝床でぐーぐーって鬼太郎の歌にあったような？いまとなつては、桜湯（寮生だと20円引き？）の終了時間（24:00）までになぜ入場できなかったのか謎ですね。

[友]才能溢れる友人、先輩との出会いにより多くの刺激を受けました。蘊蓄とサブカルチャー談義はオタクの嗜みです。私達のローカルルールは、単に面白いという感想では不十分でその何が面白いのか説明すべしというものでした。

[戦]廃寮に対抗するために防衛委員という仕事がありました。“常に我々は廃寮化攻撃にさらされている。寮生の諸君は、ガサに備えてサングラス、マスク、ヘルメットの3点セットを用意して川端署のテロリスト（公安）に対抗するのだ!!”が記憶に残っています。

[集]集会といえば、ブロック会議、寮生大会、寮祭などがありました。下着泥棒事件(犯人は寮生)などの緊急集会も記憶に残っています。入寮そうそうに議長に任命されてしまった A3 ブロック会議はまったくの盛り上がり欠け出席者は2～3人でした。あまりに暇で議事録にリップサービスで“日帝の横暴に寮生の怒りが爆発した”と書いたら自治会の人が見れて大変なことになったのは内緒です。寮生大会は非常に長くてつらかった思い出しかないです。

[買]サンプラザ（入ると買い物するまで出れないシステムが斬新、たまに卵がやすいが全体的に高め）、ジャスコ（現イオン？、二条にあり UFO がたまに安い）、ヤオセン（野菜が安い）が食料の買い出し先でした。私は四条あたりにあったマルトミという激安衣料品店を愛用していて、1000円で入手した黒いジャンパーを喜んで着ていたら同じブロックで3人ほど同じものを着用していてあぜんとなったのはいい思い出です。

[離]一年生の終り頃、生活環境を改めて真面目に過ごそうと決心して、二年生の4月に上高野（岩倉より少し手前です）の下宿に引越をしました。熊野寮という竜宮城を離れて、“修学旅行の夜”のような生活からの解放感を味わうと同時に何とも言えない寂しさを感じました。良くも悪くも濃密な時間でした。

[結]最近、研究室の同窓会があり、卒業後、いろいろな立場となり普段顔を会わせることはほとんどなくなってしまった旧友達と“昔はしょうもないことをしてたなあ”と気楽にはなせる機会は得難いものだと実感しました。寮の同窓会を通して、元寮生同士の交流が深まることを期待しています。ㇿ（うかんむり）に R という略字は寮を離れて以来、見ることはありませんが寮関係者だけが読める心に刻まれた秘文字ではないでしょうか。